

みなとホームの休日

休日は自宅で家族との時間を大切にする人、ホームでのんびり過ごす人、移動支援を利用して外出を楽しむ人、それぞれが自分らしい休日を過ごしています。その他にもみなとホームでは一年を通して様々なイベントや季節の催しを企画しています。



#食品サンプル作り

みなとホームって どんなところ？

みなと福祉会には、男性用と女性用の8ヶ所のグループホームがあります。5～10人定員で世話人・生活支援員とともにあたたかな生活をおくっています。

1999年にみなとホーム港北第1をたちあげたのが最初で、その後希望者も増え、みなとホーム茶屋北の開設により、現在では64名ほどの入居者がくらししています。

ショッピングに
便利な立地条件！

バス停も近く
お出かけにも便利♪

みなとホーム茶屋北
2019年6月開設の
新しいホームです！



#クッキング



#お買い物



#アクセサリー



みなとホーム

#行ってきま〜す!



#ケーキ作り



#かき氷食べたよ

みなとホームの魅力

個性あふれる
仲間たち

自分らしさを
尊重した暮らし



#プラモデル



#クリスマス会

#演劇鑑賞



#ピ

特集面では
法人の事業所の取り組み内容など
順に紹介していく予定です。
次回はあしたの家(予定)
乞う、ご期待を!

障害福祉65歳問題を学ぶ

障害福祉サービスを利用している人が65歳になると、介護保険申請を要請され介護保険に移行することで、それまで無料であった利用料が発生したり、利用できるサービスの時間数や内容が制限されるなどの「65歳問題」があちこちで起っています。

この問題について渡邊覚氏（愛障協事務局長）を講師に管理者、相談支援専門員を対象に12月に学習会をおこないました。

人間の尊厳という視点から考えよう

○障害者自立支援法違憲訴訟において政府との和解文書「基本合意」が締結されたが、すでにその中に介護保険優先原則（障害者自立支援法7条）を廃止し、障害の特性を配慮した選択制の導入をはかることが明記された。にもかかわらず法の改正がされていない。

○そんな中で、違憲訴訟の原告のひとり岡山の浅田さんが介護保険を申請しないことを理由に障害福祉サービスを全面的にカットされる事件がおきた。いったんは回復したはずの人間の尊厳が再びぶみにじられ訴訟にいたった。65歳問題は人間の尊厳という視点からみて

いく必要がある。

○浅田訴訟高裁判決の意義はとても大きい。2つの法律の目的の違いを指摘。自立支援給付では社会生活を営むことができるようにとの視点をもつ。そのため、介護保険給付ですべて解決はできない。必要に応じ自立支援給付を選択することがふさわしい場合もある。また介護保険給付で発生する自己負担が当事者にとってどの程度の負担になるかも考慮すべきとした点などは特筆すべき。

○また厚労省も二つの制度の「適用関係等について」などの通知において、具体的な利用意向を聞き取りにより把握すること。介護保険のサービス支給量や内容では十分なサービスが受けられない場合は自立支援給付費を支給することなど、あくまで本人の意向を大切にすよう繰り返し発信している。

（要旨の一部のみ）

「基本合意」文書や浅田訴訟の高裁判決、厚労省の通知文書などを力に、当事者のねがうくらしが生涯にわたり継続できるように支援にあたっていくと決意を新たにしました。（業務執行理事 石川修）

ミラクルファーム通信④

「お米収穫大作戦の巻」



みなと福祉会の事業構想から始まった「夢のプロジェクト」の第1弾。港区藤高にある畑を借りてスタート。毎日（午前）出かけて作業をつづけています。

今回は、ぽかぽかワークスさんと連携して作った自然栽培米作りを紹介します。ぽかぽかワークスは、名古屋市中川区にあり4年ほど前から自然栽培をやっている先輩の事業所です。わーくす昭和橋でとりくんでいる中川区ブランド野菜の「野崎白菜」をとおしてつ

ながりをもち、中川・港と地域が近いので連携できるところはないか模索していたところでした。

自然栽培米はあたりまえですが、農薬・肥料を使わずにつくるお米です。まずは豊田市にある「農業生産法人みどりの里」に行き、お米の「塩水選」「土入れ」をぽかぽかワークスの利用者さんたちと一緒に体験した後、実際の田んぼでお米作りにはいりました。お米作りでは、さまざまな工程を実際に感じ収穫まで体験することができました。ちなみにお米の品種は「イセヒカリ」でした。（どんなお米かは調べてみてください。）

畑には普段から行っているのですが、田んぼとなると慣れない足場の中で作業をするので仲間のみんなも大苦戦でしたが、ぽかぽかワークスの利用者さんにコツを教えていただいて、うまく作ることができました。収穫したお米をいただいたのですが、自分たちで作ったものとなると普段のもの以上の味わいを感じることができました。

（イルカ作業所 畑山京悟）